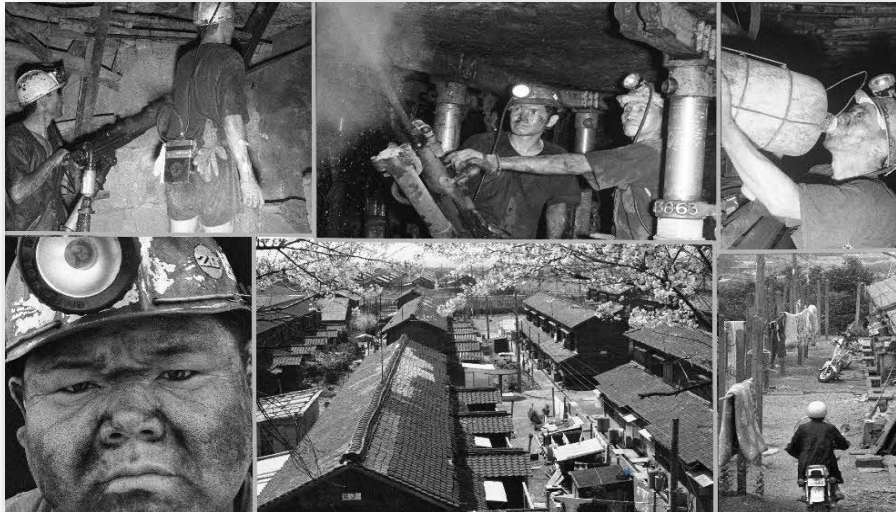


写真展

「元炭坑マンが撮った三池炭鉱」

世界遺産登録10周年



日本の近代化を支えた人々の息吹が あの地底（じぞこ）にあった

高木尚雄氏(故人)は元炭坑マン。炭鉱華やかりし頃の昭和30年代から、坑内に入り採炭現場や炭坑の暮らしを写真に撮り続けました。その数は580余点、ネガフィルムは6000コマに及びます。

三井三池炭鉱の社員とはいえ、趣味として私用で行う坑内での撮影は労災保険の適用も受けられない、落盤・ガス爆発など危険と隣り合わせの撮影でした。それはもう今では撮ることができない貴重な記録でもあります。

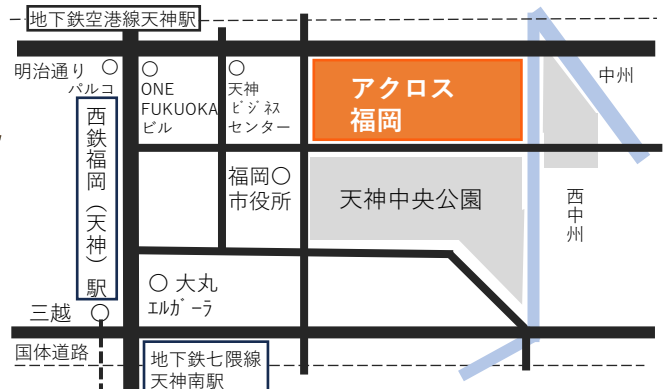
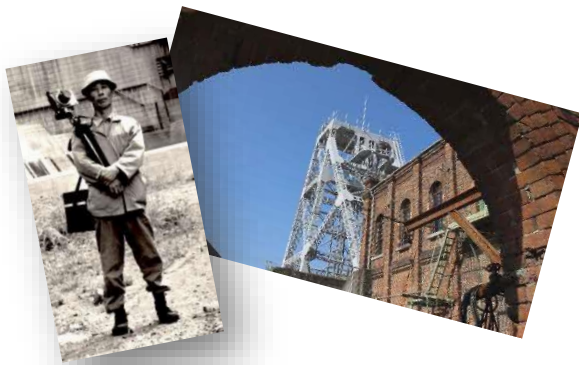
明治以降「三池炭鉱」は「八幡製鉄」「筑豊炭田」と並んで九州・日本の近代化の礎を作ったと云っても過言ではありません。

今回はほんの一部の展示ですが、世界遺産登録10周年を迎えた今、炭坑内の労働や炭住の人々の暮らしを垣間見ることで、あらためて九州の地底(じぞこ)のエネルギーを感じると共に、若い方々には誇りと次世代創造の源としてもらえれば幸いです。

会期 2025 9/15 月・祝 - 21 日 (入場無料)

10:00-18:00 (初日15日は 12:00~ 最終日21日は ~16:00)

会場 **アクロス福岡 2F** 福岡市中央区天神1-1-1
メッセージホワイエ



主催 木下正文

共催 荒尾市(熊本県)

Tel. 080-5212-1294